

温泉津

温泉津焼きと北前船

伝統工芸品便り

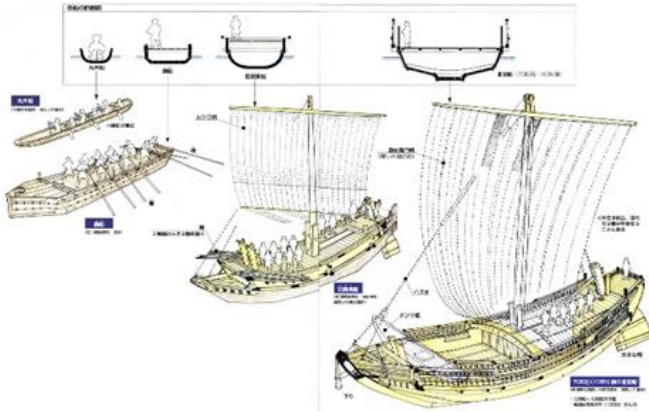


焼きものの里横にある大きな登り窯

十一月十七日(金)、温泉津焼きものの里に行きました。温泉津焼きは、古くから伝わる焼き物で、特徴としては高温で熱しているのもとても固い焼きあがりになり、耐火性の高い石見粘土を使用し、耐用年数も長く、日用食器などにとても適しています。

温泉津焼きは北前船とむすびついて栄えました。北前船は江戸時代から明治時代にかけて日本海で大活躍した船です。この時代の大体の船は商品を預かって運送していたのですが、北前船は船主自身が商品を買ひ、売買していたので、そこで石見地方の代表的商品として売られていたのが温泉津焼きです。

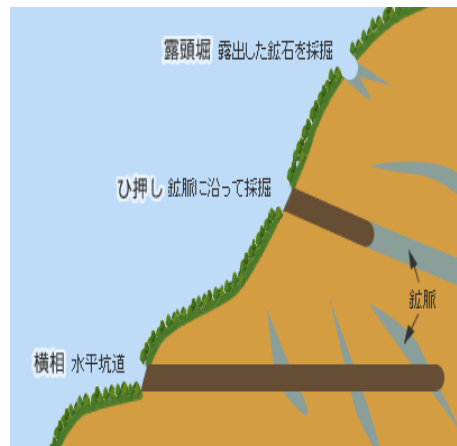
実際に今回温泉津焼きものの里に行き、陶芸体験をさせていただきました。僕としては人生初めての陶芸でした。テレビなどで見ていたときは案外できそうだなと感じていましたが、いざやってみると思ったよりうまくいかず、少し難しかったです。作るものの形状などは自由だったのでみんなの作品をみてみると、一人ひとりの個性が感じられてとても面白かったです。作品を作り終わったあとは温泉津焼きの登り窯がある所に行きました。煙が上手く上に登っていけるような作りになっている登り窯にとっても身近に歴史を感じることが出来ました。



江戸時代の船 右が北前船 (日本財団図書館 HP より)

石見銀山の鉱山技術

銀鉱石の掘り方の進化



「しまねバーチャルミュージアム」より

石見銀山が始めた技術は沢山あります。画期的な水のくみだしポンプ、唐箕と呼ばれる農機具を転用した送風装置などがあります。

銀鉱石の掘り方も時代を重ねながら進化していき、見える鉱石を掘る露頭掘りから、鉱脈に沿ったひ押し掘り、鉱脈を探って掘っていく横合い掘りへと掘り方は進化しています。石見銀山では、掘り方の進化の跡も残っていて、見ることが出来ます。

佐渡やほかの鉱山でも石見銀山の技術がもとになったそうです。近代でも石見銀山の技術が台湾の鉱山で生かされているそうです。

実際に坑道(間歩)を見て、とても寒いなど思いました。中でライトを消してみたときは真っ暗で何も見えませんでした。その当時作業していた人は、今のようないも無い中で、ずっと作業をしてい、とてもすごいなと思いました。

